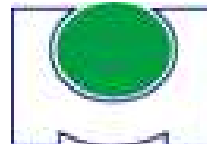


校長室から

校長室だより 第4号
令和3(2021)年6月2日発行
文責 宮城県宮城野高等学校
校長 佐藤 誠



本校が令和4年度から行う学科改編について、去る5月22日に県教育委員会から正式に発表されました。在校生の皆さん並びに保護者の皆様には既に概要についてお知らせしておりますが、あらためて学校公式HPにも掲載いたしました。基本的に同じ内容にはなりますが、ご覧いただければと思います。

宮城野高校は、令和4(2022)年度入学生より学科改編を行います ～「未来デザイン力」の育成による新たな「普通科」「美術科」へ～

令和4年度入学生から

普通科 5学級(200人) 美術科 1学級(40人)

※令和4年度2年次・3年次は、「普通科」「美術科」「総合学科」の3学科に変更ありません。

令和4年度入学生からは、現在の3学科体制を「普通科」「美術科」の2学科体制に改めます。総合学科を中心に培ってきた探究学習を継承・発展させ、異年次異学科で多角的な視点から未来社会を構想して未来デザイン力を育成する「未来構想ゼミナール」を開講します。

「未来デザイン力」 よりよい未来社会を創造する力

開校以来 総合学科を中心に取り組んできた課題研究を土台に

総合学科東北大会 ポスター発表



デザイン選手権 決勝出場



地域未来プロジェクト(宮城野区役所との連携)

すべての生徒の探究活動を充実させ
「未来デザイン力」を育むことができる仕組み
それが『未来構想ゼミナール』

【関連情報】

- 公立高校ガイドブック ⇒ 宮城県教育庁高校教育課教育指導班 HP

<https://www.pref.miyagi.jp/site/sub-jigyoku/kyo-guidebook-index.html>

- オープンスクール(学校説明会) ※詳細は「中学生の皆様へ」を参照してください。

6/26(土)、7/31(土)、11/13(土) ⇒2021オープンスクール実施要項pdf

※11/13(土)は、「美術科卒業制作展」(於:宮城野区文化センター)と同時開催。

実施要項は後日掲載します。

- 美術科入学希望者のための「中学生美術実技講習会」

9/25(土)、11/27(土) ⇒実施要項は8月以降掲載します。

【お知らせ】・7月16日(金)～17日(土)に実施を予定している文化祭は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今年度も一般公開は見送ることとなりました。あしからずご了承ください。

学校花木散歩 その4 「タブノキ」 ～シンボルツリーがちょっと残念に～

校門から入って校舎に向かい特徴のある円形の建物の外観を見たときに、必ず目に入るのが昇降口の前のサークルにそびえる「タブノキ」である。初めて宮城野高校に来たときに、あまりに存在感があるので、てっきりこれが校木だと思ったくらいだった。実際、美術科の生徒が校舎を入れた絵を描くと、多くがこのタブノキのある構図を選ぶ。また、今までの学校案内のパンフレットやオープンスクールのポスターにも、何度となく描かれてきた。誰に聞いたわけでもないが、自分の中ではこのタブノキが宮城野高校のシンボルツリーだと考えている。

タブノキは、北海道などを除く日本全国に自生するクスノキ科の常緑樹で、日本書紀にも登場するほど古くから知られている。ちょうど今頃5・6月が開花期で、花は小さくあまり目立たないが、よく見るとたくさん花芽の塊が見えるので、まもなく花を咲かせてくれると思う。そんなタブノキだが、今の姿はグラウンド側の上部の葉が広く欠け落ちて枝ばかりとなっていて、実に侘びしい残念な様子となっている。学校を代表する真のシンボルツリー一足するには、どの方向から見ても満足できる均整のとれた姿でいて欲しいものだ。頑張ってくれ、タブノキ!

宮城野高校の校歌「野を讀ふ」を紹介します。

こんな校歌、他にない！ ～無伴奏・混声四部合唱の校歌です～

校歌「野を讀ふ」

作詞 八巻一雄
作曲 矢吹隆志
編曲 内藤淳一

一 おほいへ
大舎にともがら集ひ
書ひもときて学びたり
世界を解く智慧創造の業
ここは宮城野縣の真中

二 おほにわ
大庭にともがら躍り
身こころ鍛へて修めたり
人類の和と貢献の道
ここは宮城野世界に開けたる

三 おほはら
大原をともがら歩み
季節愛でつつ感じたり
天地に吾ある不思議
ここは宮城野心の宿り

宮城野高校の校歌「野を讀ふ」は、全国でも極めて珍しい無伴奏・混声四部合唱の校歌です。

平成27年4月に教頭として着任し、始業式で2・3年次生と先生方総勢約600名が歌うこの校歌を初めて聞いた時は、圧倒され身震いがしたのを覚えています。まず浮かんだのは「何だこれは」という言葉、そして次には「おおー

っ」という心から湧き上がる感動。夏以降は行事の時には1年次生も加わる合唱となり、総勢900名が作り出すハーモニーに満ちた空間に同席することは、何にも増して楽しみでした。

しかし残念かつ恥ずかしいことに、自分の音楽センスのなさから、2年間教頭で勤めている間に結局満足にパートを歌えるようになりませんでした。今回機会を得て、再び宮城野高校の一員となったからには、今度こそしっかりとパートを歌えるようになりたいと心に誓っています。

さて今在籍している生徒の皆さんも大変気の毒に思います。昨年度からのコロナ対策として、行事等での合唱は取りやめとなり、自ら校歌を歌う機会も、混声四部の一員として一体感を味わうこともできないでいるからです。今年の入学生はもとより、今の2年次生すら、全校生徒による校歌合唱を体験していないという現実、歌い継がれてきた本校の無伴奏・混声四部合唱の素晴らしい校歌が、途絶えてしまいかねない危機感すら感じています。これからぜひ機会を作っていきたいと考えているところです。

今、変異株の感染には十分な注意が必要と言われつつも、このあと県内の感染拡大が抑えられた状況が続けば、6月末に予定する中学生向けの「オープンスクール（学校説明会）」では、ぜひ在校生生徒諸君による校歌披露を実現したいと考えています。きっと本校の校歌の良さを伝えてくれるはずです。

また、本校公式HPには、校歌を紹介する次の音源も掲載しています。ぜひ、お聞きください。

○平成28年3月1日卒業式 校歌合唱

○平成27年10月1日後期始業式 校歌合唱（多賀城市文化センター）

○平成27年9月15日校歌コンクール 1年次全員合唱（作曲者 矢吹 隆志 先生の指導による）

○平成27年4月8日入学式 校歌合唱

最後に、本校校歌「野を讀ふ」の作詞者八巻一雄先生（本校初代校長）、作曲者矢吹隆志先生（本校初任教頭）、編曲者内藤淳一先生（本校初代音楽科教諭）の3名の方々が、本校創立10周年記念誌に寄稿された文章がありますので、掲載します。どのような想いを込めて校歌を作詞・作曲・編曲したのかがよく分かる内容となっています。お読みいただき、なお深く校歌を味わっていただけたらと思います。

○本校創立10周年記念誌『野を讀ふ』より

作詞者八巻一雄先生（本校初代校長）◇校歌「野を讀ふ」の歌詞：一番「銀白色の大きな校舎。ここに私たちは、県内各地から集まってくる。授業に出、本を読み、友と語らい、世界を解き明かす知恵、世界を創り続ける技術を学んでいる。ここは、県のほぼ中央部にある宮城野なのだ。」二番「全面に芝を貼った緑溢れる広い校庭。ここには私たちの躍動がある。ここで私たちは日々心身を鍛え、世界の平和、人類の福祉に貢献する力を身につけている。ここは空と海から世界に開けている宮城野なのだ。」三番「仙台のビル群、蔵王の山並みが見渡せる広大な平野。ここを私たちは通学する。道すがら、季節の変化に驚き、自分が宇宙の中に存在している不思議さに感じ入る。ここは、島崎藤村が「心の宿」と詠んだ宮城野なのだ。」

歌詞中の「野」も「宮城野」も掛詞、宮城野の平野と宮城野高校を含意する。例えば、最終行は、宮城野も宮城野高校も「心の宿」なのだという私たちの気持ちを表した。矢吹隆志氏（初任教頭）、内藤淳一氏（初代音楽科教諭）により、荘重にして典雅、朗々と響き合う混声四部合唱の名曲がつけられた。

作曲者矢吹隆志先生（本校初任教頭）◇作曲～校歌への想い：日本の学校は、それぞれ校歌を持っています。欧米では、学校独自の校歌は持ちませんが、学生のための愛唱歌が数多くあります。校歌は、日本的な貴重な文化のひとつと言えるかもしれません。八巻校長先生より校歌詞「野を讀ふ」をいただいたのが8月でした。いにしえより文化の香り高い宮城野に、少しずつ姿を現していく学校を想いながら、曲想を温めること6ヵ月、冬の夜、一気に書き上げました。パストラレー（田園風に）と付してありますが、のどかでのびのびとした歌声で唄っていただければ幸せです。宮城野高校は21世紀に生きる新しい学校です。さわやかな学生歌のひとつとして歌い続けてほしいと願っています。

編曲者内藤淳一先生（本校初代音楽科教諭）◇編曲～全校で歌う校歌の合唱へ：開校準備に忙しい平成7年の3月、まだ見ぬ280名の宮城野高校第1回生の無伴奏全校合唱をイメージし、混声四部の譜面を作りました。それぞれのパートが旋律的に作られ、そんな編曲はちょうど、一人ひとりの個性の輝きが全体のハーモニーの中で調和する、学校の理念を表現するものでした。